

COC Monthly News Letter

COC: Center of Community (地(知)の拠点)

Yamanashi Prefectural University

山梨県立大学の地域貢献活動を毎月1回お届けします。

2017年11月号

Vol.

30



グローバルな知の拠点となる大学
未来の実践的担い手を育てる大学
地域に開かれ地域と向き合う大学

Topics

最新のニュース・話題など大学での出来事をお伝えします。

◇京都自立就労サポートセンターの取り組みについての講演会開催

10月18日(火) PM3:00~本学飯田キャンパスにおいて、京都自立就労サポートセンターの高橋尚子先生を講師にお招きし、「京都自立就労サポートセンターの取り組みについて」の講演会が開催されました。県内の生活困窮者自立支援事業を実施されている自立相談支援機関の皆さま、福祉事務所のケースワーカーの皆さま及び学生が大勢参加してくださいました。以下、この講演会に参加した学生からのコメントです。

 実習で就労支援の施設を見学しましたが、その時に学んだことを更に深める事が出来たので良かったです。障がいのある方の苦手な部分をことさら注視するのではなく、良い部分・できる部分を見つけ、それぞれの人にあった就労支援を行うことが大事なんだと感じました。障がいがあるからこれが出来ない、あれは無理だと決めつけるのではなく、障がいがあるからどうすればその仕事が行えるのかを考えていかなければならないと思いました。就労支援を受けたいという人々は、少なからず仕事をしたいと思っているはずなので、その意欲をどのように引き出し、支援につなげていくかが大切だと私は考えました。支援を行うには支援者側も全力を出し、支援をする方のために頑張らなければならないのだということ、今日の講演を聞いて一番印象に残りました。福祉として、今後どのような視点を持つべきなのかを学んでいきたいです。

(人間福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 岡本真実)

就労支援と就職支援は違うというのが一番印象的でした。私達が授業で学んできているのは就労支援です。SW(ソーシャルワーカー)にとって大事なことは就労支援であり、初回の段階から、アセスメントをじっくり実施して、本人の働きたいという思いを大切にすることが、SW(ソーシャルワーカー)の役割だと思いました。その人の出来ないことを見るのではなく、見方を変えて、努力すれば出来るようになるという考えを持たなければならぬと感じました。私は、昼夜逆転している状態は規則正しいとは思いませんでした。しかし、生活のリズムが出来ているというプラスの見方をして、その人にあった仕事をする事も、その人の就労支援であると思いました。お金を稼ぐことだけが目標ではなく、就労して自分の役割に気づき自信をつけて働くことの本来の目標を持ってほしいと感じました。

(人間福祉学部 福祉コミュニティ学科2年 小林捺美)



イベント情報

気になる話題の情報やためになる講習会や研修会をご紹介します。

◇第3期やまなし市民後見人養成講座

成年後見制度について関心のある方、地域での高齢者問題・障がい者問題に関心のある方などを対象に、山梨県立大学では、「やまなし市民後見人養成講座」の第3期生を募集します。今回、6回の講座を下記の要領で開催いたします。全6回の講座履修者には修了証をお渡しいたします。市民後見人の基本的なことからお話しいたしますので、初心者の方々、実務家の皆様もどうか奮ってご参加ください。(講座内容は、昨年同様のものとなります。)

【日時】11月26日(土)、12月3・10・17日(土)、1月21・28日(土)

12:30~16:00

【場所】山梨県立大学飯田キャンパス A館6階サテライト教室

【参加料】無料

【問い合わせ先】山梨県立大学地域戦略総合センター Tel:055-225-5412 Fax:055-225-1150

Mail: info-coc@yamanashi-ken.ac.jp

今月のプロジェクト 大学が自信を持っておすすめするプロジェクトのご案内。

<日本語を母語としない子どもたちの未来を考えるプロジェクト>

国際政策学部 国際コミュニケーション学科 准教授 萩原孝恵

外国にルーツのある子どもたちへの〈教育〉の重要性に焦点をあてた、大学と現場と地域の方たちとの連携・協働プロジェクトを紹介します。

☆2015年度 〈学びの支援〉に焦点をあてた日本語支援活動 2015

(資料1) 「外国人保護者のための進路進学シンポジウムと相談会」 11/29 開催(県内初)

(資料2) 「DLA (Dialogic Language Assessment for JSL) 勉強会」 全6回開催(県内初)

☆2016年度 日本語を母語としない子どもたちの未来を考えるプロジェクト 2016

(資料3) 「外国人保護者とその子どもたちのための進路進学ガイダンス」 7/3 開催

(資料4) 「外国人保護者とその子どもたちのための高校進学ガイダンス」 10/30 開催

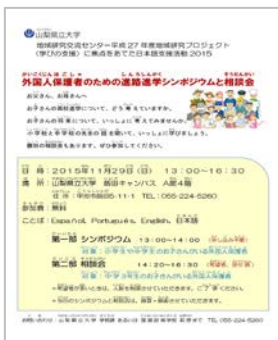
今年度は、山梨県教育委員会、甲府市教育委員会、中央市教育委員会、笛吹市教育委員会、南アルプス市教育委員会のご後援をいただきました。また、この取組みに賛同し、ご協力して下さる先生方も増えました。この取組みは、山梨県における〈教育〉に関わる課題解決型プロジェクトです。誰もが安心して生活できるコミュニティであるために、希望を持って働ける地域であるために、いま・ここから発信していきます。応援してください。

(資料1)

(資料2)

(資料3)

(資料4)



担当教員紹介 個性派揃いの優秀な教員の意外な素顔を紹介します。

<国際政策学部 国際コミュニケーション学科 准教授 萩原孝恵>

2014年3月の終わりに4年半滞在したバンコクから本帰国し、同年4月1日に山梨県立大学に着任しました。専門は「語用論 (Pragmatics)」です。「言語学」という学問分野の一領域です。私が「語用論」に惹かれていくきっかけとなった1冊、それは、ダイアン・ブレイクモアの『ひとは発話をどう理解するか』(ひつじ書房、1994年)という本でした。このブレイクモアとの出会いが、研究者としての始まりです。コミュニケーションにおいて、私たちはなぜ誤解をするのか、なぜカチンとくることがあるのかなど、日本語母語話者と日本語非母語話者の実際の言語使用に着目した研究を進めています。

写真の代わりに似顔絵を掲載します。これは、前任校のチュラーロンコーン大学日本語学科2年生からの贈り物です。遠く離れても、私は彼らと糸電話で繋がっているのだそうです。とても温かく、最高のメッセージです。

日本語教育に携わって20年、これまで出会った世界各国の学生たちが、私を困らせる難解な質問をたくさんしてくれたおかげで(笑)、いまの自分になりました。これから、山梨県立大学の学生たちは、どんな難解な質問を私に投げかけてくれるのでしょうか。楽しみです。

大学では日本語教員養成課程を担当しています。1年生前期開講の「日本語教育概論」は、国際コミュニケーション学科の8割以上の学生が履修します。自分で考え、解決していく力を身に付けていくこと。そんな学びの場を学生と共に創っていかれたら、と思っています。



<私の宝物> 国際コミュニケーション学科 萩原孝恵准教授

編集後記

カレンダーが11月となり、今年も残り2ヶ月となりました。寒暖の差が大きい季節の変わり目は、風邪を引きやすくなるので注意が必要です。しっかり身体を休め、適度にリフレッシュをして、体内の免疫力を高めていきましょう。

編集発行: 公立大学法人 山梨県立大学 地域戦略総合センター
〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1 TEL:055-225-5412 FAX:055-225-1150
ポータルサイトURL <http://region.yamanashi-ken.ac.jp/>
購読申し込みURL <http://region.yamanashi-ken.ac.jp/newsletter>